令和８年度全国学力・学習状況調査結果について

会津若松市教育委員会

１　全国学力・学習状況調査の結果の概要

⑴　調査に関する概要

実施日	令和８年４月２３日（木） ※中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」は、 ４月２０日（月）～４月２３日（木）のうちいずれか１日 中学校英語「話すこと」は、 ４月２４日（金）～５月２９日（金）のうちいずれか１日	
学年	小学校６年生	中学校３年生
実施人数（実施校数）	８１２名（１９校）	７７０名（１１校）

※　義務教育学校前期課程は小学校、義務教育学校後期課程は中学校に読み替えてください。

⑵　教科に関する調査結果の概要（平均正答率）（中学校英語はＩＲＴスコア※）

【小学６年生】

	会津若松市	福島県	全国
国語	**６０**	５９	６０．９
算数	**５４**	５４	５６．４

【中学３年生】

	会津若松市	福島県	全国
国語	**６０**	６２	６３．９
数学	**５０**	５３	５７．０
英語	**４５２**	４７２	４９９

※ＩＲＴスコア・・・問題の難易度と、児童生徒の解答状況から、より正確に推定した学力（能力）の値。

⑶　全国の平均正答率を基準とした市立学校の教科別結果

区分	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
Ａ　全国平均を上回る （全国平均＋２以上）	９校	８校	２校	２校	－
Ｂ　全国平均をやや上回る （全国平均＋１以上＋２未満）	１校	０校	１校	０校	－
Ｃ　全国平均とほぼ同じ （全国平均±１未満）	２校	３校	１校	２校	－
Ｄ　全国平均をやや下回る （全国平均－１以上－２未満）	０校	０校	０校	０校	－
Ｅ　全国平均を下回る （全国平均－２以上）	７校	８校	７校	７校	－

※　中学校英語は、平均正答率ではなくＩＲＴスコアによる公表のため、除きます。

2　各教科の学力調査結果に見られる主な特徴

小学校の国語では、漢字を書くことや自分の考えを書くこと、まとめることに関して、全国平均正答率を上回っていますが、国語の話すこと・聞くことの領域や、算数の割合に関する問題では全国平均正答率を下回っています。

中学校では、国語の漢字を書くことに関しては、全国平均正答率とほぼ同様ですが、自分の考えを記述して表現する問題では、正答率を下回っています。

⇨ 対策　4 (1)　(2)　(6)

対象	教科	正答率が全国平均を上回った または同程度の領域及び問題形式等	課題が見られた領域及び問題形式等
小学６年生	国語	記述式・短答式の問題 読むことの領域の問題	話すこと・聞くことの領域の問題
	算数	立方体の体積の求め方の問題 表の集計の問題	体積の意味についての問題 割合に関する問題
中学３年生	国語	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使う問題	記述式の問題 助動詞の働きに関する問題
	数学	データの傾向を捉え、判断の理由をグラフの特徴をもとに説明する問題	図形の領域の問題 記述式の問題
	英語	日常的な話題について短い文章を読み、概要を捉える問題	書くことの領域の問題

3　質問調査項目に見られる主な特徴

日常的な生活や授業に関して、不安を感じることなく生活できている様子が伺えます。教科の学習に関して、国語は得意であると感じる一方、算数・数学は、学年が上がるにつれ難しさを感じる傾向が強くなっています。また、平日１日当たりのＳＮＳや動画視聴等（学習での利用、ゲームでの利用を除く）の利用時間が少ない児童生徒ほど、学力が高い傾向を示しています。

⇨ 対策　4 (4)　(5)

ＩＣＴ機器の活用については、様々な場面で必要に応じて利活用できる機会が必要であることも伺えます。

⇨ 対策　4 (3)

調査対象	肯定的な回答の割合が 全国平均を上回った主な質問	質問項目から明らかになった課題
児童生徒	困りごとや不安があるときに先生などに相談できる。	授業で、パソコンやタブレットなどのＩＣＴ機器をほぼ毎日使用している割合が全国平均より低い。
	先生が、授業などでわかるまで教えてくれている。	
	国語の勉強が得意である。好きである。	算数・数学・英語の勉強が得意であり、好きである割合が全国平均より低い。
学校	児童生徒は課題の解決に向け、自ら考え取り組むことができている。	一人１台配備されているタブレットの活用について、小学校では個人の理解度に合わせての活用度が、中学校では調べる学習で活用度が高いものの、その他の項目で全国平均より低くなっている。
	各教科等で身に付けたことを様々な課題の解決に生かすことができる。	

4　学力向上の対策

⑴　本市で実施している全国学力・学習状況調査研究会において、全国学力・学習状況調査の結果を分析するとともに、授業等での取組の方向性を示し、各学校で自校の学力向上プランを作成・実践します。

①　研究会において分析した本市の課題から、学力向上に向けた「授業等での取組例」を作成し、各学校に周知

②　①の「授業等での取組例」を基にし、各学校の実態に応じた自校の「学力向上プラン」を作成し、実践

⑵　児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成や実態把握のために、各種テストを実施します。

＜小学校５年・中学校２年で実施＞

①　１２月　　民間業者の総合学力調査

②　　２月　　市独自のチャレンジテスト（市学校教育指導委員会作成）

⑶　ＩＣＴの効果的な活用を推進し、個別最適な学習や協働的な学習を充実させ、内容の理解を深めることで学力の定着を図ります。

①　教師と児童生徒が双方向でやりとりできる授業支援クラウドサービス等を活用した協働的な学習の推進

②　授業における習熟の時間や家庭学習でのＡＩ型デジタルドリル等の活用の推進

③　教育ＩＣＴ推進委員会でタブレット活用の実践研究

⑷　学校・家庭・地域が一体となった学力向上推進体制の構築を図ります。

①　タブレットやＡＩ型デジタルドリルの活用を含めた家庭学習の充実

②　メディアバランス週間の徹底

③　あいづっこ数学サポートティーチャーのより積極的な活用

④　地域人材による学習ボランティアの活用

⑸　児童生徒の学習意欲の向上に向けた取組を推進し、チャレンジ精神を養います。

①　漢字、英語、数学の検定受検の推進

②　あいづっこ人材育成プロジェクト事業※の推進

※あいづっこ人材育成プロジェクト事業・・・複数のプログラムから学校が選択し、地域人材（有識者等）を授業の講師として招聘できる事業等

⑹　より一層の授業力向上と望ましい人間関係の構築を図ります。

①　教育講演会、授業力向上研修会による授業の工夫・改善の推進

②　指導主事がすべての学校を訪問することによる授業の工夫・改善の推進

③　学びの集団づくり研修（ＷＥＢＱＵ※等の活用）による学級におけるよりよい集団づくりの研究の推進

※ＷＥＢＱＵ・・・児童生徒個人、学級集団の状態、個人と集団の関係性を把握するためのアンケート